

自己評価									
学 校 運 営 計 画 (4月)								評 価 (総 合)	
学校運営方針		校訓「向学・忍耐・敬愛」を教育の基盤とし、知・徳・体の調和を重視した教育活動を推進することで、「広い視野を持って、地域で活躍する」高い志と自立心のある心豊かな生徒を育成する。『笑顔と感動のある中間高校～授業で育つ 行事で育つ チームで育つ～』						A	
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標					
1 「主体的・対話的で深い学び」の実現のためコロナ禍の中においても生徒たちが主体的な活動やSDGsの意識を持ちながら取組を継続的に続け、新たな活動を生み出すことができた。 次年度は更に、SDGsを意識した活動を今まで以上に発展させ、様々な意識づけができるよう進めていく。 2 コロナ禍において、この1年間職員のスキルアップ(授業力の向上)に向けた取組が充実し、今まで以上に加速した。さらに加速させるために、ICT機器を有効活用し、新たな授業づくりや新たな学校行事等を創造していくことを目指す。 3 ICT機器を積極的に活用し、総合的な探究の時間や学校行事等において表現活動(GD・小論文・校外活動)を充実させることができた。今後とも、更に発展させながら主体的に取り組めるよう充実させていく。 4 研修の機会を大幅に増やすことで、教員並びに生徒の中で人権意識が今まで以上に高まった。今後は、更に研修の機会を通じ、日常的な教育活動の中においても更に、人権教育の充実を図る。		○社会に開かれた教育課程による確かな学力の育成		・ICTの環境整備が進む中でのデジタルトランスフォーメーションを実践することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、観点別評価による学習評価を充実することで、能動的な学習態度を育てる。 ・カリキュラム・マネジメントを推進し、思考力・判断力・表現力を育てる。 ・スクール・ミッションの理解を進め、本校の存在意義や期待される社会的役割、目指すべき学校像を涵養する態度を育む。					
		○豊かな心と健やかな体を育むとともに高い志の育成		・何事においても失敗を恐れず、前向きに粘り強く取り組む精神力を育てる。 ・生徒自身が高大接続や企業連携を通じ、様々な体験を通してキャリア教育を推進し、高い志をもち、社会的・職業的自立を育む。 ・本校での先進的取組であるSDGs活動をさらに浸透させることで、生徒1人1人がより良い国際社会の実現に貢献できる態度の育成を目指す。					
		○様々な価値観や立場を認め、協調して生きる資質・能力の育成		・「不易五項目」を実践することで、他者に対して正しい発信力を身に付け、思いやりや感謝の気持ち育てる。 ・授業、部活動、学校行事等を通して自己有用感を高め、協調性を育てる。 ・人権教育を推進させることで、「LGBTQ」の理解を深めさせ、平等に責任や権利や機会が分かち合える気持ちを育む。					
		○地域社会へ積極的に貢献する行動力の育成		・公共の精神に基づき、いじめや差別を絶対に許さない意識や態度を育てる。 ・成年年齢の引き下げに伴い、主体的に社会の形成に参画する良識ある態度を育てる。 ・「コロナ禍」において、新たな生活様式の確立を目指し、日々の生活が充実できる行動力の育成を目指す。					
評価項目	具体的目標	具体的方策			評価(3月)		次年度の主な課題		
教科指導	授業規律と学習習慣の確立	不易五項目(挨拶、清掃、公共物の保全、時間厳守、傾聴姿勢)を常に念頭に置いた指導を行い、その中でも特に「時間厳守」姿勢(教室移動や提出期限)を身に付けられるように働きかける。			A	A	A	・授業規律については、落ち着いた状態で授業が行われ、良好な状況である一方、寝ている生徒がそのまま指導されていないとの報告が挙がるなど、指導の統一性を図る必要がある。不易五項目をすべての場面で意識できるような働きかけを進め、教育環境の改善・発展に尽力したい。出席率については、年々下降傾向にある。コロナ禍における新しい指導方法について、学年や養護教諭、SC・SSW等と連携を強化し、早期指導にあたりたい。	
		出席率の向上を目指し、安易に遅刻・欠席をさせないための方策を徹底するとともに、家庭・学年・教科・部活動等関係者と連携を密にして指導にあたる。特に欠課時数が多くなった生徒に対して、組織的に指導を行う。			B				
		教室内の掲示物を整理し、荷物や鞆の整理整頓を常に意識させる。			A				
	学力の向上	授業中における演習や実習時間を確保することで、論理的思考力や問題発見力などについて能動的な学習態度を育てるとともに生徒の主体性を伸ばし、確かな学力の定着を図る。			A	A	A	・ICTの積極的な活用については、教職員の意識がさらに向上したことによって飛躍的に活用頻度が高まった。また「新たな学びプロジェクト」推進校に継続的に指定され、学校全体を挙げて授業改善に取り組んだ結果、成果や課題が明確化された。今後さらなる改善に取り組んでいきたい。 家庭学習時間については、やはりまだ不十分な生徒が多い。進路保障のための学力向上でもあるので、しっかりと生徒に学ぶ意味を考えさせることで「自ら学ぶ力」を育成する必要がある。	
予習・復習の習慣化を目指し、計画的な家庭学習時間を確保する。そのために学年・教科及び進路部と連携を図り、適切な課題を課すことに努める。			B						
観点別評価に重点を置き、評価活動を指導の改善に生かすことによって指導の質を高める、いわゆる指導と評価の一体化を進める。			A						
生徒指導	自己指導能力の向上	学校行事を通して、リーダーシップやフォロワーシップを育むとともに、共感的人間関係の育成を図る。			B	B	B	・コロナ禍で学校行事が以前に比べて縮小されたり、経験していない学年があったりした中でも、少しずつリーダーシップを発揮できるような生徒が増えてきており、生徒の成長を感じることができた。しかし、教員も含めて前年度以前の経験が生かせない場面も多く、場面に応じた適応力や対応力を育んでいくことが課題である。 ・自転車マナーの苦情が多く、継続的で粘り強い指導が必要である。 ・コロナ禍で校外活動が難しく、活動を通しての取り組みができなかったため、様々な能力を育む機会が得られなかった。	
		部活動加入率85%以上を目指し、部活動生による学校の活性化を図るとともに、ボランティア活動などの校外活動に積極的に参加させることによって、生徒の自己有用感を高めていく。			B				
		教育相談の充実を目指し、生徒、職員の心身の健康増進を図るため情報の共有と外部機関との連携を強化する。			B				
	健康における自己管理能力の育成と環境美化意識の高揚	不易五項目の一つである毎日の清掃活動を通して、環境美化への意識を高める。			B	B	・教育相談をもっと活用し、生徒とコミュニケーションを密にとることによって、些細な悩みやサインを見逃さないようにしたい。 ・集会などで定期的に集まる機会が少なかったため、不易五項目を徹底させる機会が少なかった。		
進路指導	進路意識の向上	SDGs活動を中心に据えて、様々な活動を進めていくことを基本とする。			B	B	B	・キャリア教育の視点に立った教育活動を推進することができた。さらに教育活動全体をキャリア教育の視点から見直していきたい。 ・3年間を見通した進路行事を実施することができた。次年度に向けて時期と内容を見直していきたい。 ・全分掌、学年主任と連携して「総合的な探究の時間」の実施にあたることができた。実施内容を精選し負担軽減を考えていきたい。	
		朝日新聞出前授業やマイナビ活動等を通して、グループ活動や学年及び学校発表の機会を増やし、コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の育成に努める。			B				
		市役所や大学等と連携し、生徒の主張を外部に発表する機会の増加に努める。			B				
	進路希望の実現	国公立大学合格32名以上を目指し、生徒の進路希望を考えながら全国展開の進路指導を実行する。			B	B	A	・進路検討会等を通じ生徒の理解度を把握することができた。キャリアパスポートを活用し学習の成果が自身の成長につながっているか確認させていきたい。 ・外部と連携することでグループディスカッションやプレゼンテーションの充実した指導体制を整えることができた。次年度もコンテストやコンクールに参加させ、自己肯定感や自己有用感を向上させたい。	
希望制課外では受験対応の内容で実施し、応用力まで身に付けさせるような講座内容とするように努める。			A						
高大連携事業においてグループディスカッション講座や小論文講座、面接指導を積極的に実施するように努める。			B						
広報活動	中学生や地域への広報活動	中学校訪問を計画的に実施し、オープンスクールなどに全職員で参画することで、職員の広報活動への意識を高める。			A	A	A	・中学校訪問を計画的に実施することができた。 ・オープンスクールに全職員で参画することができた。時期と内容について検討していきたい。 ・SDGs活動について、地域や企業との連携事業を積極的に発信していきたい。	
		学校HPの充実を図り、本校の教育活動の魅力の情報発信を行う。			B				
		SDGs活動や地域との連携事業について、積極的な広報活動を行う。			A				
人権教育	豊かな心を育む	教育活動の全領域において人権尊重の視点に立った取組を推進する。			A	A	A	・人権尊重の視点に立った取組について、学校行事においても本校演劇部が「生徒の生徒による生徒のための人権講演会」を実施するらしい取組であった。 ・進路保障については感染症等で欠席が続く生徒に対してオンライン授業・HRによって、学力の保証や進路情報を提供することができた。 ・個別の支援が必要な生徒についてSCを交えて研修を行うことで、支援計画の共通理解を促した。	
		すべての生徒の進路を保障する取組を推進する。			B				
		教員の人権意識の向上を図る。			A				
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策 ・次世代を担う人材育成のために「主体的・対話的で深い学び」となる教育活動(「新たな学び」・ICT活用など情報活用能力育成・規範意識育成・キャリア教育など)のより一層の発展と充実。 ・コミュニケーション能力の向上、より良き人間関係を構築する力の育成につながるように、ウィズコロナの中での協働的な学校行事や探究活動の取組の深化と改善 ・修学保障をふまえ、心身の成長を適切に支援する教育相談や特別支援教育(個別の配慮や支援など)に対する教職員の理解を深める研修の実施。 ・持続可能な社会を形成する一員として、「生涯学び続ける力」を育成し、不確定な未来社会に対応できる「生きる力」を根底に据えたキャリア教育の充実。 ・スクール・ミッションの中核である「地域連携」をより充実させて、中学生や保護者、地域にその魅力を発信し学校評価を高めるための広報活動の展開。									

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・授業規律は生徒の学力保障の基盤となるもので、今後もしっかりとした取組をお願いしたい。 ・近年は様々な背景を持つ生徒もあり、家庭状況や中学時までの学習・生活習慣から、なかなか家庭学習や出席率の向上を図るのは難しい状況にあると理解できる。しかし本校卒業後にすぐ就職して社会生活始める生徒もいるので、基本的生活習慣の確立については学校の取組の中核として取組の継続を強く期待したい。 ・ICTの活用については、情報モラルや情報セキュリティなども合わせ、今後の社会生活にとって重要な資質であり、一人一台端末も導入されているので、積極的な指導をお願いする。
A	・今年度は、コロナ禍の状況が続く中、文化祭や体育祭など、生徒の心の成長促す学校行事が先生方の工夫で従前に近い形で実施できたのは感謝している。次年度もぜひ、「ウィズコロナ」での学校行事のあり方に工夫をお願いしたい。 ・自転車マナーに関する地域からの苦情については、単に学校の指導の問題だけではなく、家庭や地域と「命を守る」ためにも連携してい必要がある。 ・心身に課題を抱えている生徒も増えてきていると思うので、教育相談としては是非充実するようにお願いする。
A	・コロナ禍や経済的不安定な社会情勢の中で、進学も就職も今後ますます厳しくなると言われている。これからの社会に出ていく生徒に「生きる力・生涯学び続ける力」の育成のために、キャリア教育だけでなく、すべての教育活動で取り組むことを強く希望する。 ・進路意識の向上のために、勤務観・職業観を育成する取組を、地域や外部団体とも連携する必要がある。これまでも同窓会などの協力で行ってきた進路事業をより充実するよう協力したい。また、学校からも積極的に連携先も開拓をお願いしたい。
A	・学校HPは中学生やその保護者、地域と学校の接点となるので、今後ますます充実することを期待する。 ・少子化の中で、学校の魅力を伝える取組に今後いっそうの創意工夫をお願いする。
A	・人権教育は、「人間性・規範意識育成」の基盤となる教育活動であるので、今後とも学校の中核として全教職員が共通理解をもって、生徒のために取り組むようをお願いする。
評価項目以外のものに関する意見	
・一人一台の情報端末導入に伴う情報活用能力の向上 ・生徒の命を守る学校安全への取組 ・「いじめは絶対に許さない」という学校の方針の徹底 ・成年年齢引き下げに伴う「主権者教育」の一層の充実	